

# 新宮高等学校

実施日時	平成30年 10月 19日(金)
参加者	生徒200名、教職員9名、地域住民4名 計213名
実施内容	ケース発表、プレゼンテーション、ポスター発表、救急救命・応急手当、搬送法、アルファ米の試作・試食、簡易パーティーション、避難訓練

## 事前の取組

- ①学年の総合的な学習の時間を、5つのテーマに分類している。その中の1つである「防災と防犯」のグループ40名が、年度当初から地域の防災と防災に関する課題を学習し、夏休み明けから、防災スクールを主題として企画し、学習活動を行なった。
- ②防災と防犯グループを、司会班、事前学習班、地震発生班、応急手当班、搬送班、避難場所班、炊き出し班、パーティーション班の7グループに分けて、地域の専門機関から防災について学んだ。

## 主なプログラム

- 1学年の総合的な学習の時間において、「防災と防犯」のグループに属した生徒40名が事前に学習を重ね、1学年200名と地域住民を対象とした防災スクールの企画と運営を行った。
- また、このグループの生徒が指導者となり、防災に関する知識や技術の伝達と共有を図った。
- 防災スクールをケーススタディ発表とケーススタディ分科会の二部に構成し、開催した。

### 第一部 発表①

- 開会式(総合学習委員長、教頭挨拶)  
司会による本会の趣旨説明を行った。
- ケーススタディ発表  
事前学習班によるポスター発表、地震発生班によるポスター発表、応急手当班による実践的な心肺蘇生法やAEDの使用方法、搬送班による解説付き搬送の方法、避難場

所班による避難所での高校生としてできることをポスターで発表、炊き出し班によるアルファ米の作り方、試食、パーティーション班による簡易パーティーションの披露や自分たちでできる防災グッズの紹介などを順番に発表した。

### 第二部 分科会(10分間の発表×4展開)

参加者が前半5つ、後半4つの発表の中から、4つを選び、各10分間の発表に参加した。

- 事前学習班  
この地域に起こりうる地震や災害を調べ、想定にとらわれないことの重要性を発表した。
- 炊き出し班  
非常食の種類と調理方法を解説し、解説とともにアルファ米の調理を実演し、試食させた。
- パーティーション班  
避難所において心掛ける事柄を解説し、簡易パーティーションを広げ参加者に体験させた。
- 応急手当班  
心肺蘇生法とAEDの使い方を解説し、救急救命の方法を実演し、参加者に体験させた。
- 搬送班  
救急搬送の方法と必要性を解説し、緊急搬送の方法を実演し、参加者に体験させた。

- 地震発生班  
地震が発生した際にどこに避難をすればいいの、また、避難場所はどこなのかなど地域の避難場所の確認を発表した。
- 避難場所班  
避難場所での高校生としてなにができるのか、どういった手助けができるのかなどをみんなで考え、発表した。
- 避難訓練  
新宮高校内で地震が起きたときの屋上への避難訓練を経路を確認しながら行った。

#### 全体会

- 閉会式  
参加生徒より、本日の感想が述べられ、1学年主任が本日の活動に対する評価を述べ、新宮市役所防災対策課から講評をいただいた。

### 参加者感想文

- 想定に基づいた防災訓練をしたが、想定外のことも考えて訓練をしていかないといけない。高校生としてできることを率先してやっていきたい。(1年生男子)
- 実際にどのような動きをするのかを見て、体験することができたのでよくわかった。(1年生女子)

### 成果と課題

昨年度に引き続き、生徒が生徒に指導し、生徒同士で学びが深まるような学習形態で防災スクールへの取り組みを行なった。指導にあたる生徒は、事前にフィールドワークとして新宮市役所防災対策課や新宮消防署を訪問して学習するなど、主体的で積極的に活動することができた。7つの班に分かれてケーススタディを用いて発表した。様々な場面を想定して発表したため、多種多様な発表が行なえた。また、参加している生徒に対しては

体験を通して防災意識が高まるよう考慮したため、防災に関する知識と技術が効果的に共有できたと考えている。課題としては昨年度に上がっていた地域の方々に対する案内が今年も不十分であり、地域の方の参加者が少なかった。来年度以降に向けて、地域とともに計画的な企画・運営ができるように考慮しなければならない。アルファ米では50食を一気に作ってしまうので、体験活動が少なくなってしまうのでできれば小分けにした特別なものをみんなで作れるようなものがあればよかった。



応急手当班



搬送班



簡易パーティション